

日英協定成る

支那海の警備

露國に譲渡せる三艦は二十七日朝、皇軍港を出發し浦鹽に向へり（電報）

讓渡軍艦出發

當る事に日英兩國御意完成れり

（東京電報）

瀘州の危險 目睫の間に迫れりと云ふ（京電報）

支那ローモンチツク號は本國に向つて

●**韓顧問挨拶**
朝鮮皇族を代表して神武天皇二千五百年祭に参列す可く二十九日京城出發の筈なる中樞院顧問昌淳男は二十七日午前十一時總督を官邸に訪ひ眼乞の辭を述べたり

●**川村中將遺骨** 金澤にて發去せる故川村中將遺骨は長女故舊子之遺骨と共に未亡人へを携へ廿四日金澤を發し船里脚兒島に向ひたる由にて鹿児島へ到るの上は更に盛大なる喪禮を営まるとし

五 去せる故川村中將遺骨は長女故萬子
出 の遺骨と共に未亡人々を携へ廿四日
二 金澤を發し船里腹見船に向ひたる由
ひ にて鹿角島へ到着の上は更に盛大な
を擧げ來るべしと

川村中將遺骨 金澤にて發
早の仕立をするに、國に
爲する露國の通商協約は急激の改
爲す必要を生ずべく且黒龍江鐵道通
開通も亦大に樺東に於ける露國の政
治的位置に影響する處鮮少なからず
云ふにありされば一般の意見としし
は戰争終結後迄此種の問題の解決

早かりてするに、其の要は、大體、
於ける露國の通商條約は急務の改訂
を爲す必要を生ずべく、且黒龍江鐵道の
開通も亦大に極東に於ける露國の經
済的地位に影響する處鮮少なからずと
云ふにありされば一般の意見として
は戰争終結後迄此種の問題の解決を
に有るが、會
派選陳緒方第一聯隊長は、臨時

忠州
▲緒方聯隊長、臨時
派選陳緒方第一聯隊長は、臨時

▲青蛙會盛況
星州併呑の聲を發するに、地々々々、會合三十三

訂のの
 忠州
 結方縣隊長著
 派遣隊結方第一聯隊長は
 選開の爲め二十三日來忠二十四日平
 昌に向ふ
 青蛙盛況
 上唯吉氏は四十五日間の除染を以て
 全雄北道内各地方に於て勸食貯蓄

すべく二十六日試験等級審査會を開き、總えて二十七日更らに大正五年度收支決算に關する本會監理院の等なり▲村上囑託の請渡、總督府監託に上厩吉氏は四十五日間の決定を以て全羅北道内各地方に於て勸諭貯蓄獎よりて年々各地方より一定の支出を

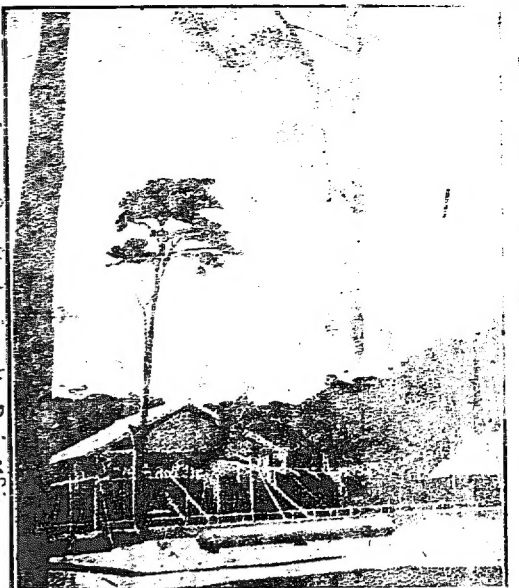
開闢金銀を貸附する事とし、四箇年賦を以て返還せしむるの方法に出でんと、長官訓令にて漁船漁具補助規程を公布すべく、先づ來年度は二千二百五十圓の地方費支出を計上したるが、此れにてより年々地方費より一定の支出を要し、

御披ひにて御登山の趣、昔以上に拜讀、一幅の畫圖眼前に彷彿覺え、

敬安仕候。

兩塊呼フタタケ呼フタタケ山麓汗ヤマノハタのうらゝ、哉小生の天地は又こんな風に候窓外の巨木夜半の闇かな

御狝ひにて御登山の越へ世に上にて
拜讀、一幅の畫圖眼前に彷彿覺えそ
微笑仕候。
兩腕相呼ふ山路汗のうらゝ哉
小生の天地は又こんな風に候
意外の巨木校半の觀かな



博義王殿下御輕快

御見舞報日々數十通に達す
伏見宮博義王殿下の御病氣に就き、御見舞報日々數十通に達す。殿下は御病氣に就き、御見舞報日々數十通に達す。殿下は御病氣に就き、御見舞報日々數十通に達す。

會葬者涙に咽ぶ

頓宮大尉 阿部中尉の合同葬儀
頓宮大尉 阿部中尉の合同葬儀。頓宮大尉 阿部中尉の合同葬儀。頓宮大尉 阿部中尉の合同葬儀。

波瀾に富んだ生涯

世に名を馳せる故金王母氏
世に名を馳せる故金王母氏。世に名を馳せる故金王母氏。世に名を馳せる故金王母氏。

俱に聯絡提携

朝鮮の獨立を期す
朝鮮の獨立を期す。朝鮮の獨立を期す。朝鮮の獨立を期す。

鴨江解氷

船の交通を開始
鴨江の氷が解け、船の交通を開始。鴨江の氷が解け、船の交通を開始。

邦語に熟達せる鮮人醫師

總務府附屬醫院醫學部
總務府附屬醫院醫學部。總務府附屬醫院醫學部。總務府附屬醫院醫學部。

十四回の放火

證據不十分で無罪
證據不十分で無罪。證據不十分で無罪。證據不十分で無罪。

狂犬に咬まれる

狂犬に咬まれる。狂犬に咬まれる。狂犬に咬まれる。

斯くの如き理想

斯くの如き理想。斯くの如き理想。斯くの如き理想。

軍艦生活

大艦隊の生活
大艦隊の生活。大艦隊の生活。大艦隊の生活。

持持物は何處

持持物は何處。持持物は何處。持持物は何處。

上海に誘き出し

上海に誘き出し。上海に誘き出し。上海に誘き出し。

衣袋の中へ外套

衣袋の中へ外套。衣袋の中へ外套。衣袋の中へ外套。

ハンモックの夢

ハンモックの夢。ハンモックの夢。ハンモックの夢。

移轉廣告

大同生命保險株式會社
大同生命保險株式會社。大同生命保險株式會社。大同生命保險株式會社。

朝鮮銀行

朝鮮銀行。朝鮮銀行。朝鮮銀行。

最新鉄剤

最新鉄剤。最新鉄剤。最新鉄剤。

皮膚病新劑

皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。

氣管支症新劑

氣管支症新劑。氣管支症新劑。氣管支症新劑。

小兒科專門

小兒科專門。小兒科專門。小兒科專門。

若槻醫院

若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。

梅毒症新劑

梅毒症新劑。梅毒症新劑。梅毒症新劑。

皮膚病新劑

皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。

氣管支症新劑

氣管支症新劑。氣管支症新劑。氣管支症新劑。

移轉廣告

大同生命保險株式會社
大同生命保險株式會社。大同生命保險株式會社。大同生命保險株式會社。

朝鮮銀行

朝鮮銀行。朝鮮銀行。朝鮮銀行。

最新鉄剤

最新鉄剤。最新鉄剤。最新鉄剤。

皮膚病新劑

皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。

氣管支症新劑

氣管支症新劑。氣管支症新劑。氣管支症新劑。

小兒科專門

小兒科專門。小兒科專門。小兒科專門。

若槻醫院

若槻醫院。若槻醫院。若槻醫院。

梅毒症新劑

梅毒症新劑。梅毒症新劑。梅毒症新劑。

皮膚病新劑

皮膚病新劑。皮膚病新劑。皮膚病新劑。

氣管支症新劑

氣管支症新劑。氣管支症新劑。氣管支症新劑。

赤毛漆君の代

赤毛漆君の代。赤毛漆君の代。赤毛漆君の代。

村上病院

村上病院。村上病院。村上病院。

出館

出館。出館。出館。

二男長生病氣

二男長生病氣。二男長生病氣。二男長生病氣。

土井芳輔

土井芳輔。土井芳輔。土井芳輔。

父は獨逸新海相
日本に踏止まる

して白羽の矢が立つた其れに誰あら
目下、蘭領、蘇州、の牧畜所内に囚
はれの身の衰れを嘆つ海軍大尉フ
ン、ザルデンであった。當時
□ザルデンは、
□に生れ、
海軍大尉を優秀の成績を以て空想し
頓宮、阿部二飛行將校の葬儀

□となつた事を、
にて知り、大に落胆し早速悲旨を仲廣
の夫に手紙に云ひ送り、且神佛を崇
故國の父に向け祈文を送り、他日
早く平和克復となし、歸れて夫婦が故
國に歸れるやう願ひますと父に當て
手紙を出した。さるにても父は時

山幸吉(三)の兩名は何れも酩酊

米國人の猩紅熱
 キンストン、エブララーク(三)は
 十一月十一日安東縣より入京したる所發
 病に依りセブラス病院に入院診斷の
 異疑似猩紅熱と判明したる

國豚のしりのだ卷
 世に二つにへきまの豆腐
 だをけさるゝ鍋で水で
 二度洗ひよく水をとり別

百姓共光圀公を代
に致したるを殘念
に百姓共が細打つ

納言様の御請で、御膳居と申
るは前の中納言左衛門公、當時

[illegible][illegible][illegible]

●釜山
↑米土
不勢を細
より二三

[illegible]

二十五日(穀物)
 穀日本より不勢に
 反し露市勢は買
 るに必竟
 應にらんか
 應にらんか

現物市場

四月廿五日

平價小豆	六元
小井黒豆	五元
小原白米	五元
島津米	四元
長島	八元
國川	七元
河川	六元
平庫小豆	六元

門の廻穀

四月廿五日

平價小豆	六元
小井黒豆	五元
小原白米	五元
島津米	四元
長島	八元
國川	七元
河川	六元
平庫小豆	六元

北濱

四月廿五日

平價小豆	六元
小井黒豆	五元
小原白米	五元
島津米	四元
長島	八元
國川	七元
河川	六元
平庫小豆	六元

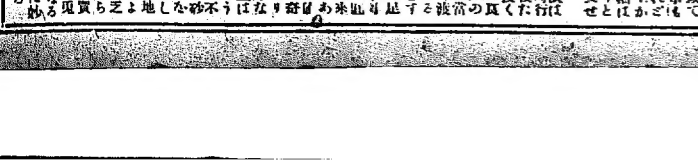
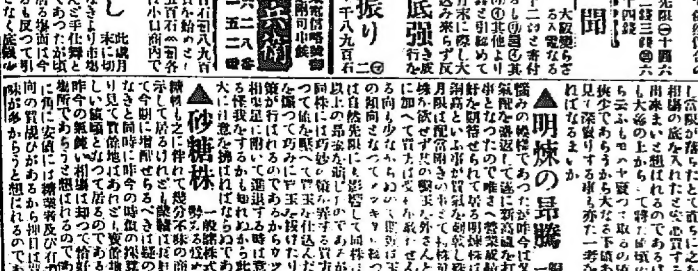
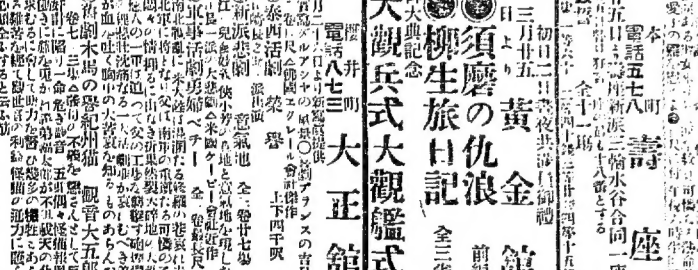
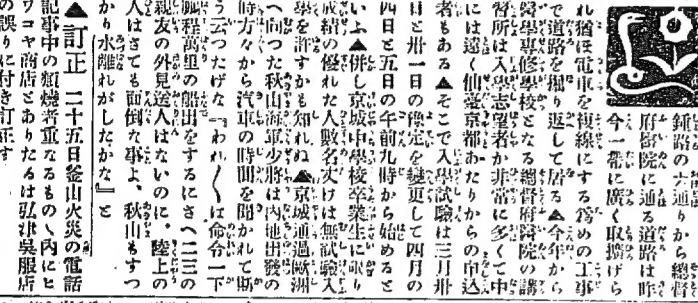
五月限

出米

平價小豆	六元
小井黒豆	五元
小原白米	五元
島津米	四元
長島	八元
國川	七元
河川	六元
平庫小豆	六元

眞人氣の反

比鞍
 萬千百石
 前日と比鞍
 三安
 二安
 一安
 比鞍
 萬千百石
 前日と比鞍
 三安
 二安
 一安





學校の一つで、同じく先生が、
こゝに、米國の旗を
掲げ、
つて、生徒に、自國の手印を
方、齒の磨き方を教へて
同に限り、掲げることなど
と、同時に、各小學校で
は、彼、昨日の手段には、
爲す可きと云ふ、オチ、
高、初級、あつて、一週
に、齒磨き、並、齒磨き、
も、丈夫、磨料の、
いの、學ばれない、
御座います。

ライオン講演會と
口腔衛生運動

國民の健康と齒牙の保全

「健全なる精神は健全なる身体に在り」とは、古來の名言であり、一國民の健全には、實に國民一般の齒牙口唇衛生の完全に根柢をなければなりません。

歐米諸國の齒牙衛生狀態

それで歐米諸國では、此の點に對

常に注意を拂つて居ります。例へば最近アメリカでも、齒科醫齋藤氏は協同發起して「身体を強くするものは健全な歯である。齒の衛生を等閑にしておいて、病氣の預防方法を講じたり、健康の増進を計つたりするのは、本末顛倒である。吾々は飽く迄も口腔衛生の普及發達を天賦とし、健全な國民を作らねばならぬ」といふ貴い信條の下に、一大口腔衛生活動を起しまして、其第一歩としては各小學校と連絡を條つて、衛生講習や、其他種々な方法で、「齒は大切にすべきものである」といふ印象を早くから兒童の腦裏に刻みつける事に骨を折つて居ります。

説令式で費を圖く小學校

此の外無料で歯の検査や治療をする

るは勿論、口中病の療方法として、各兒室に齒固子の便り方を設へて、恰も^ニ体熱でもするやうに號令式で齒を磨かせ、齒を大切に^ニする習慣を^ニづけて居ります。齒は各房に齒科診療所を設けて、貧困者のために^ニ療もするまいふ風に、一方世人の覺醒を促す共に、齒方與論の喚起に努めるる現狀で御座います。

日本兒童は悉く齲齕に罹る

然るに我國の一般衛生の狀態は如

何でしよう。素人の諸君の設備は月一日も廻つて行きまされども、之を歐米諸國に比してみましては甚しく劣つてゐるのであります。殊に口唇衛生状態は兎に角よれば遠較ながら最も幼稚な程度にあるのでござい

ライオン講演會の出現

弊店は、夙に此點に鑑み、として、及ばずながら此の事業の

めに徴収を願はたいと思つたのであります。それが爲の爲に數年前、ライオン講演會に出席し、連日、その一箇を組織致しまして、齒科醫師其他の講師を招聘して、東京を始め地方各縣に於ける小、中、女學校や、工場又は軍國等に於いて、齒口衛生講話を開きまして、今後は繼續してゐる様な次第でございます。幸に此舉は少なからず世間の御同情を得まして、到る處大歡迎を受け、各學校及び諸種の各團體より其實益に對する感謝の證狀を寄せられ、著々成功して居る有様でございます。然し猶ほ益々効果を挙げたいと存しまして、

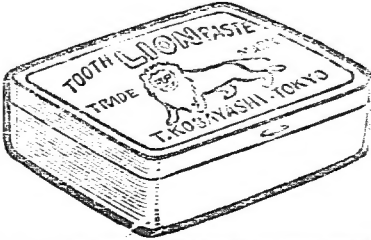
諸般の聯絡を保つて、此宿願を達

の事に没頭して居ります。

ライオン齒磨の光榮

國家の健全、國民の元氣、見ゆるの健康、これ等は日頃私々が十分に究めなければならない大問題でございます。此の意味に於いて、敝店はライオン諸君の責任が實に重きならぬ事を信じてゐます。今後に於いても更に各位の御協力に御同情に由つて、此目的を達せたいと思ふのでござ

います。又それと同時に敝店發賣のライオン齒磨が日々齒口衛生普及の實を示して行きますのは、衷心より敝店の光榮として感謝致す能はざる所でございます。



ライオン歯磨本舗

京城日報

頭者、北京政府は其帝政計畫を取消の政府として、極めて強大にしては人格の富貴なる點に於ては何をも尊重する人なれども、聖棍節節斷し南北對立に處する政治家として悉くは適當人に非らず。○ク氏は前回の選舉に民衆黨に推れて目出度く勝利の月桂冠を戴くを得たるは共和黨我が國の政友會を如く二十餘年間も政權を握りて人の厭忌を來したるトバーズエルの

上

總統に加附するもの甚だ多く、他人若し南方革命派に同情を寄するあれば、則ち張勳が目して之を視るの姿あり、即ち是れ支那の形勢に就て二様の觀察の相異なるところにして一方に袁氏の時代は既に過ぎ去れりと爲し、其の退隱も以て時局收拾の第一要務と爲すものである他の一方には、支那を支配する人物は袁氏の外にこれ無く、又北府政府以外に支那を一統すべき政治的中心なし、假令米國には四年毎日に大統領の選挙あり、一度其の選挙終れば大統領の位置は其の仕置つるまでは更新することなく、又議會の解散と云ふものも絶対になければ、米國人は其のもの絶対に對しては熱心憎かゝ狂するが如くなれども、選挙と選挙との間は政界比較的靜謐にして日本の如く連綿的に變がしからず、然るに今や米國の政界漸く活氣を呈し來りたるは

○要するにウ氏の政治的運命如何ハ

ウ氏の當選見たるが、今更にはグライン氏がウ氏の軍機密を反對して中原の鹿を爭ふ可く出馬す可しと傳ふることを果して事實となり、共和黨が得権の恥を免ぐ爲め一致協心パーティ氏なりヒュース氏なりを候補者に立て、歩調を揃へ競選に打つて出でなば勝利を得るべしなる可き手。

多か

しとせず。

今日支那動亂の原因を論ずるもの多し其を袁氏の皇帝たるものと國民の反感を買へるに歸す。成程此度の動亂を起すものは、皆帝政反對共和權を以て其聲を上げたれども假りに袁大總統をして帝政を企及する已ならしめたるは如何、支那人民に共和自治の能力なきは甚だ明白なり、而して北京政府の財政窮乏兵力微弱、殆ど全國を統一するの力なきなり、由來支那は亂邦なり、三年五弱輔にありとは云ひ難しと雖も、巧

者衆兵少武藝乏

第三に太祖が納哈出の休戦の請ひを斥けしは孫子の行軍篇に於て教へたる所一致すと云ふべからざるか。行軍篇に曰く、敵爭うして備を益すは進むなりと。又曰く、銳無して和を請ふは謀なりと。太祖の兵を用ふる此の如く殆んど兵法に説いごころを活用せるが如し。思ふに兵書の研鑽精大なるものなりしなるべし。兵法に合するてふ事が必ずしも兵書のなり、遠くして戰を挑む人の進歩を欲するなり。其居る所見なげけるや、何故に元祖何が利に導きたりや、何が地に地形を利用せざりしとを意にしや大江匡房をして之ををしむれば人情むらくは好男兵書を知らずと云ふならん。尙孫子の軍編には右述べたる外、幾多の見軍の場合を掲げたなり、序に其機會全據したる部分の全文を左に記さん。敵争うして備を益すは進むなりと。又曰く、銳無して和を請ふは謀なりと。太祖の兵を用ふる此の如く殆んど兵法に説いごころを活用せるが如し。思ふに兵書の研鑽精大なるものなりしなるべし。兵法に合するてふ事が必ずしも兵書のなり、遠くして戰を挑む人の進歩を欲するなり。其居る所見なげけるや、何故に元祖何が利に導きたりや、何が地に地形を利用せざりしとを意にしや大江匡房をして之ををしむれば人情むらくは好男兵書を知らずと云ふならん。尙孫子の軍編には右述べたる外、幾多の見軍の場合を掲げたなり、序に其機會全據したる部分の全文を左に記さん。

本館 定閱
三個月拾元
六個月拾八元
一年三十元
郵費在內
廣告
第一版每日每行一元
第二版每日每行八角
第三版每日每行六角
第四版每日每行四角
第五版每日每行三角
第六版每日每行二角
第七版每日每行一角
第八版每日每行五角
第九版每日每行四角
第十版每日每行三角
第十一版每日每行二角
第十二版每日每行一角
第十三版每日每行五角
第十四版每日每行四角
第十五版每日每行三角
第十六版每日每行二角
第十七版每日每行一角
第十八版每日每行五角
第十九版每日每行四角
第二十版每日每行三角
第二十一版每日每行二角
第二十二版每日每行一角
第二十三版每日每行五角
第二十四版每日每行四角
第二十五版每日每行三角
第二十六版每日每行二角
第二十七版每日每行一角
第二十八版每日每行五角
第二十九版每日每行四角
第三十版每日每行三角
第三十一版每日每行二角
第三十二版每日每行一角
第三十三版每日每行五角
第三十四版每日每行四角
第三十五版每日每行三角
第三十六版每日每行二角
第三十七版每日每行一角
第三十八版每日每行五角
第三十九版每日每行四角
第四十版每日每行三角
第四十一版每日每行二角
第四十二版每日每行一角
第四十三版每日每行五角
第四十四版每日每行四角
第四十五版每日每行三角
第四十六版每日每行二角
第四十七版每日每行一角
第四十八版每日每行五角
第四十九版每日每行四角
第五十版每日每行三角
第五十一版每日每行二角
第五十二版每日每行一角
第五十三版每日每行五角
第五十四版每日每行四角
第五十五版每日每行三角
第五十六版每日每行二角
第五十七版每日每行一角
第五十八版每日每行五角
第五十九版每日每行四角
第六十版每日每行三角
第六十一版每日每行二角
第六十二版每日每行一角
第六十三版每日每行五角
第六十四版每日每行四角
第六十五版每日每行三角
第六十六版每日每行二角
第六十七版每日每行一角
第六十八版每日每行五角
第六十九版每日每行四角
第七十版每日每行三角
第七十一版每日每行二角
第七十二版每日每行一角
第七十三版每日每行五角
第七十四版每日每行四角
第七十五版每日每行三角
第七十六版每日每行二角
第七十七版每日每行一角
第七十八版每日每行五角
第七十九版每日每行四角
第八十版每日每行三角
第八十一版每日每行二角
第八十二版每日每行一角
第八十三版每日每行五角
第八十四版每日每行四角
第八十五版每日每行三角
第八十六版每日每行二角
第八十七版每日每行一角
第八十八版每日每行五角
第八十九版每日每行四角
第九十版每日每行三角
第九十一版每日每行二角
第九十二版每日每行一角
第九十三版每日每行五角
第九十四版每日每行四角
第九十五版每日每行三角
第九十六版每日每行二角
第九十七版每日每行一角
第九十八版每日每行五角
第九十九版每日每行四角
第一百版每日每行三角

刀

喧ましかつた帝政問題も兎に角一先づ結局がついた尤も後始末が申々客易ではあるまいが取消申合で帝政其ものは先き死んで仕舞つたわけである帝政運動が表面の勢力となつて現はれたのは誰も知つてゐる通り昨年夏の初め近士諸一派の意合會が起り政府の憲法顧問グッドロウ博士が帝政を擁護したのに基くが裏面の運動については其由來つと古く愚民が觀察者は昨年二月頃から裏腹のふのはすつと後陣の方に登れてゐることも云ふが左に云つたからさて何と鋼鐵の甲を着る譯では無い矢張り木綿が襦子で長袴縞のやうなものを作りに裏に長さ一寸二三分幅一寸ばかりの薄く鍛へた機片を鍔で隙間なく取付けるのを著た兵が槍刀を以て聲先に進み、その後から輕甲の兵と云ふのを持て躍いて行くには又極甲でも云つて眞の打を食いた甲であらう此は步兵で騎兵頭も槍兵と云ふのはすつと後陣の方に登れてゐるに意とする所無きながら今も從來滿人の手に縛はれてゐた天下を漢人の手に取回したといふ事が其の主たる主意の一つである日本で維新の時たる大徳川政府に迷惑を懸けた者が王政復古後の功臣と仰がれて明治の時代に擧振りがよかつたと同じく支那でもなる大清朝に迷惑を掛けたる者が民國成立後は市がきくわけである、さう云ふ理窟をつけて之を國

帝位に即く考があるのを有破して居たのであるそれは何かと云ふと當れの時政府及び民間の一部に袁世凱を以て副帝に祀せんと云ふ議論が喧へられた事で其意味は袁世凱が云ふ明末の名將を副帝后帝と合祀して國神に祭らうと云ふ提案である、袁世凱と云ふのは清の太祖妃兒哈赤と遼東に戦ひ叛式の戦法で之を破つて流行の兒兒哈赤を氣死せしめた云ふ來歴のある將軍である、當時明は滿洲を治めるのに遠征軍を常に遣へてゐるのを建て、欄の外を分ち欄内には漢民族即ち支那の本土から移住した民を置き欄外には夷族即ち他民族を居らしめたそして兒兒汗帝司と云ふ役人を置いて欄外を治めると云ふ所附夷族の中で一番勢力のある滿洲民族と蒙古民族とが聯合するのを防なり、衆固動くは来るなり、衆草靡多きは威ふなり、鳥の思つは伏なり、獸の駭くは覆なり、塵揚うして銀きは車来るなり、車うして廣きは從の来るなり、散し條に達るは獲探るなり、少にして往來するは驚軍なり、駭車うして備を益すは進むなり、斷強うして進み驕るは退くなり、輕進先づ出で、其の側に居るは陣するなり、約無して和を請ふは謀りとなり、奔走して兵車を陣するは期するなり、半ば進み半ばは退くは誘ふなり、杖ついて立つは仰ゆるなり、汲んで先飲むは渴するなり、鳥利を見て進まざるは勞するなり、鳥の集まるは虛なり、夜呼ばはるは恐るなり、軍援るは將を重ぜざるなり、旌旗動くは驚るなり、吏恐るは掩合せから、掩合せも掩み神容極く、亂れるを見消しし鐵騎を驅ねて、躍出して敵陣を蹂躪するのである、滿洲人は蒙古人のやうな遊牧人種では無いがしかし、矢張り馬は得手である、馬上の建才なり、勢に乘じ蹄を揃て突いて掛る、到底正面から進ん来たものには無い、それで滿洲兵は、連年連勝、眼中既に明兵無しと云ふ勢であつた處、出て来たのは袁世凱で、流石は名將だけ、真先に敵の主力は馬にある事を有破した滿洲兵を威するに、馬の役に立たぬやうにするが可い、内地で戦へばこそ馬が充分に働ける版に、部つて仕舞へばまさか馬で乗かせるわけにも行かない、それに限ると覺悟して、それから支那で所謂喫煙、淫、今で云へば要緊戰でもあらうか、城に附進つて附近の障害物を悉く取拂ひるは倦むなり、馬を殺して肉食するは軍に糧無きなり、往を討つて其食に返らざるは窮寇なり、尊々諸々として、徐に人と云ふは衆を失へるなり、數々責するは驚むなり、數々問するは困しむなり、先づ暴にして後に其の衆を畏るは精しからざるの至なり、來りて委縮するは伏せんと欲するなり、兵驕つて相迎久しんとして合せず又相去らずんば、必ず誰かて之を祭せよと、文中鳥の起つは伏なりとの事は恰も大江江房が順義家に教へしところにして、匡衡や或は孫子を受けしものなん、袁家によりて後三年の役に於て、飛雁行を亂るを見て危きを免れたるは人の皆知るさるの如し、書を讀みては空言に落ちざるを注意すべく、又一言半句と忽忽に看過すべからざるなり、
○此項略す

破天荒の記念大賣出

一本も空籤なし

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 景品附區域 | 朝鮮全道及安東縣 |
| 景品附箱數 | 壹萬七千箱限り |
| 景品附期間 | 大正五年 自三月十日 至五月三十日 |
| 但し期間中ニ雖賣出箱數に達したる時ハ締切る | |
| 景品引換券 | サツボ口、アサヒ |
| (大瓶八打人) 壹箱に付壹枚施進書 | |
| 景品目録 | |
| 一等金時計(十八金) | 金八十圓 拾本 金八百圓 |
| 二等勸業債券 | 額面拾圓合計 拾本 金五百圓 |
| 三等勸業債券 | 金五十圓 拾本 金五百圓 |
| 四等勸業債券 | 額面十圓 拾本 金五百圓 |
| 五等三越吳服店切手 | 金五圓 拾本 金一百圓 |
| 六等瓦 斯裏地 | 金一圓 拾本 金一千圓 |
| 七等モスリン風呂敷 | 金五十錢 貳千本 金一千圓 |
| 八等タオ | 金十錢 六千本 金六百圓 |
| 九等手拭(郵便切手) | 壹圓或は拾本 金四百六十二圓六十錢 |
| 合計壹萬七千點 | 總計六千六百十二圓六十錢 |

今^か御注文^を賜^{たま}はる

最好機會なり

意注
度願上候

御主
麥酒は京城市内及各地販賣店に有之候間景品
寺工即講求の祭販賣店より直接御受取被下

景品引換期限 八月三十一日迄

景品引換 當社京城出張所

抽籤方法 來七月一日
午前七時京城商業會議所

合計壹萬七千貳額銀六千六百十二圓六十錢

◆九等手拭文は郵便切手
 壹筋又は參錢貳枚
 七千七百拾圓六十錢

七等	モスリン風呂敷	金五十錢	本五千	金一千圓
八等	オール	金十錢	本六千	金六百圓

五	三越吳服店切手	金五圓	拾本	五十圓
六	等瓦斯裏地	金一圓	千本	金一千圓

三	等	勸業債券	面金十圓	資本金一千圓
四	等	勸業債券	面金十圓	資本金一千圓
五	等	勸業債券	面金十圓	資本金一千圓

◆二	等勸業債券	額面拾圓合計	拾本	金五百圓
◆三	等限	金五十圓	金五百圓	

◆一等金時計(十八金) 金八十圓 拾本 金八百圓

小瓶八打入 一箱以付寄持須連子

景品引換券 **サッポロ、アサヒ**

夏田降地間 大正五年 五月三十日
但し期間中ニ雖賣出箱數に達したる時は締切る

景品附明間
大正五年
自三月十日

景品附區域 朝鮮全道及安東縣

— 2 —

一本も空籬なし

破天荒の念賣出

大正電記

[illegible]

五月報 五萬六千三百五十石
方を依頼せられたる懷中町
(十間)を悉く檢閲人買消

の五月限
三月限 一萬石
四月限 五萬五千石
上北鶴津里強以根外七

大日本麥酒株式會社京京城出張所

須藤南翠作

無事

に陥ちて、唯今土

と思つたのか、馬鬣に驅けて行つて其處に繋かれた主人の鞍馬を牽き出した。而て無言で大手の御門を出て、下馬先から其にうち勝ち、一顧當て駈け出した。是れを見た岡田長門守の郎等も、俄かに早打の用意をして、供待所を走り出した。其處へ殿中を脱れ出て、急ぎ足に此處へ來かかつたのが、主人長門守重直の舍弟岡部藤五郎、一族坂井下總守の兩人であつた。

『者共、乗馬を牽け！』

『斯う言ひ捨て、急いで大手の門を滑り出た。』

心得て二頭の鞍馬を牽き出し、一同其處へ戻つた。坂井下總守は忽ち馬に降りながら、

『本家の主人、何者の讒言かは存せぬ。思ひも寄られ大坂内應の飯逆の』

奉公は、や、是までと思はゞ、心住に退散せよ。若しまた重代の恩を以て、城もろともに一命を阻まう存する輩は、疾く我等に続けや。』と呼はりながら、一縷くれて驅けした。

長門守捨首の恩の厚かつたのか、流石に義を知る者共と見え、誰落延びんとする者なく、二頭の鞍足破烟を驅けて疾驅する、一人とし後る者なく、孰れも飛鳥の如く宙を飛んで星崎さして馳せ著けるであつた。

『やあ後たわ、松ヶ島、星崎とも必定、龍城と思はるゝぞ。はや立歸つて、最後の一戦を湖よくせよ。淺井が家千輩も、皆一同に長島出て、討安賀きして馳せ逃つた。第一番に城を出た津川が郎等は』

鐵鎗を合せて一散に駆け続け、三時
 餘が程に、松ヶ島に駆け着けて、殿
 中の轡事、主人玄菟元龍義の御末を
 報せられたので、松ヶ島の城内は上を
 下へと騒動した。玄菟元が急御津川
 獨次郎、度を失つて立ち騒ぐ人々を
 制して、
 「兄弟等は、國司殿が御城賀無二
 の忠義を存じて唯唯殿をのみ大事
 に心得申した事、各方も疾く松町の
 ことと申す。過る日大阪城(参り
 たる節、筑前守殿も舍兄が心底御存
 知あつて、長門殿、田宮殿と別備の
 對面あり、中將殿は故有大方の御連
 入院隨魚影寮九時迄)

征 鹿
 勝 敵
 虎 鹿
 病 毒
 阿 治 明 城 京
 藤 佐
 一 話 電

科 生 學 院
 機 能 障 礙
 日 曜 祭 日 午 後 二 時 迄
 校、國司家の繼嗣に在すれば、我
 卿か如くに存せざらん。性々彼の
 認の御性質、兎角傍言に動かされ
 て、御身を危うせんと思はるる事
 送す、も無念に存する。其方共は
 百勇二ながら驕れて、あつはれ大國
 依の臣と存する間、決して輕々
 しく御動きなされぬやう、能く
 心掛け盡らせよと、殊更に朝朝あつ
 程や。されば、今日の登城を幸
 其他の兩人とも謀合なし、御家百年
 の基を固むため、御前に於て國法
 を正さうと存じたるに、如何して搜
 り得たるか、裏を搦て金見等三人
 で計つて棄てたる事、奸臣賊者の所
 行とは、明かに存じ居る。斯ては我
 等も安穩なるべき所由なければ、城
 を守り、計手を引受け、花々しく一
 戦して、討死致さうと存じ決めた。
 各方意見おさるるか。唯今則ちに承は
 らうと、演述した。

[illegible]

獎學金
其他
大特典
共提

講義
大革新

兩講義錄見本
申次第進呈

ク
ラ
ブ
美^び
身^{しん}
ク
リ
ム

尊き邊御買上の光榮を忝うぜり

世界の
にんき
人氣は
更に
愈々



木
マ
ー
ド
に

煉香油

わつま
集る

店現代四國 舖本
店支平数昆平・店商也統昆平

二男長生病氣の
 處本日午前七時死
 致候に付乍略儀
 紙上を以て御通知
 上候

明後廿九日午後四時三千
 途中葬列を廢し若草町
 洞宗本山別院に於て葬
 禮相參る候

正元年三月二十七日
 京城南米倉町二〇五

土井芳輔

[illegible]

今東京で太
全の薬店

白ツケタラシク鏡をぞり色白くなるゲンシノ液

小瓶 一打 四十銭

評判の白美の元素色黒き顔赤く顔白やけおしろいやけ、アレタ防キメをコマカに根本の色白く真の美人美男子小開物化粧品店に販賣す近所に品切の時代金丈の郵便切手送付送品東京和泉橋盛ケンソ液本通 法本藥店

寫眞出張撮影
寫眞銅版、亞鉛凸版
最も強健せる技術を以て最も廉價に部
屋と町場親切な旨とし紳商等に可成り
眞
京城日報社 寫眞製版部

統 營 丸 巨 寶 丸 每 日 三 日 目 開 本 加 行	長 生 補 方 傳 普 生	義 江 陽 丸 每 日 三 日 目 開 本 加 行	三 浦 丸 四 月 五 日 三 日 目 開 本 加 行	長 生 補 方 傳 普 生	義 江 陽 丸 每 日 三 日 目 開 本 加 行
---	---------------------------------	---	--	---------------------------------	---

朝鮮郵局
大池回

船口 酒部

三琴平丸 三月三十日淺六
門司、宇品、神戸、大阪行
三琴平丸 四月 八日淺六
佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
眞丸 每月二日九日廿日
廿一日廿六日 午

時出帆
唐出帆
後十時
出帆

元山、西湖、新洲、城津、清津	倉丸	三月廿八日、庚戌
元山、城津、浦鹽行	倉丸	四月廿六日、庚戌

時出帆
時出帆

八船釜山出帆座
同司、神戶、大阪行
神丸 四月 九日 午後五
元山清津浦發行
三月三十一日 止

廣告
時出帆

丸	丸	丸	大連、太沽、牛莊行
砂	河	河	四月廿二日
丸	丸	丸	四月十四日
丸	丸	丸	四月十日
丸	丸	丸	正日
丸	丸	丸	正日
丸	丸	丸	正日

午出帆
午出帆
午出帆

兩講義錄見本
申込次第進呈

四七三番
二二四二可

王

部出版

業

學天出

特典
供

相子

寺血提

